

美作国創生公募提案事業 事業成果報告書

1 事業名：アフター森芸の年、県北のポテンシャルをさらに高める

2 実施団体：城西まちづくり協議会

3 担当課：地域政策部地域づくり推進課

4 事業概要

昨年度「森の芸術祭 晴れの国・岡山」開催時に城西地区の2会場に来られた方から、「初めて岡山県北に来たがもう一度ゆっくり来てみたい所だ」という感想が多く聞かれた。アフター森芸となる今年、2024年度の来場者を次の契機に繋げていきたいと思い計画した。すでに「森の芸術祭」は2027年度開催が決まっているので、県北の魅力発信を行い、さらなる県北の観光振興に寄与する。

5 実施内容

県北の「近代化遺産・食・芸術文化」をテーマにしたイベントとワークショップの開催を行った。「建築ツーリズム」では「江川三郎八展」(10/4～10/26)と「江川建築・近代化建築を巡るスタンプラリー」(10/10～12/10)、芸術文化面では、森芸でリクエストの声が多かった「江見正暢スタンドグラス展と江見正大正・昭和写真展」(10/4～10/26)、煤竹作品展とワークショップを行った。

また、城西地区に「珈琲」の漢字を作ったと言われる宇田川榕菴と、伝説の焙煎士襟立博保氏の墓所があること、また当会が津山産小麦のパンを推奨していることから「津山珈琲物語/珈琲とパンのフェスタ」を3/8(日)に開催した。並行して、参加珈琲店の他、主として市内の珈琲店を巡ることができる「珈琲店マップ」を作成しており、市民も含め、県内外の多くの方に「珈琲のまち津山」をアピールしていく予定である。



江見正 昭和・大正写真展
江見正暢 スタンドグラス展



江川三郎八展
【展示品は真庭市から借用】



6 事業実施による成果、効果、今後の課題

(1) 成果、効果

- ①江川三郎八展とスタンプラリーの成果は、建築を媒体とした管理者間の繋がりを持つことができた。今後、街道を基軸とする観光ルートの取り組みやイベント開催時の交流に繋げていきたい。
- ②江見写真館は、森の芸術祭から今回の展示を経験され、自宅でギャラリーとカフェを開かれ多くの方が訪問している。
- ③珈琲とパンのフェスタは、珈琲とパンのイベントを同時に開催したことでゆっくりできる場となったことが良かった。再度の開催を期待する声が多かった。また、地域に眠る珈琲にまつわる方の顕彰ができ、継続して地域で行っていくことを決めた。出店した珈琲店が城西地区に出店を検討していること、出店したパン店のパンを2つのまちの駅で定期的に販売することになったことは成果。

(2) 今後の課題

「建築ツーリズム」と「珈琲とパンのフェスタ」を地域で継続して開催していくことは決めたが、実施に向け、津山市、近隣自治体、事業者などとの連携、資金調達、運営体制構築などが課題と考える。

7 県民局と連携した効果及び課題

「森芸GO FOR2027」の情報提供を受けたこと、庁内への広報をしていただいたことなど、事業周知に携わっていただけた。

コーディネーターの依頼や、参加者を募る時、県民局の委託事業であることを伝えることで、事業の信頼度、広域性、公平性を理解してもらうことができ、事業を進めやすかった。

事業を進める中で、県民局の担当の方が機会あるごとに現場を訪れて様子を見てくださったことは心強かった。